

## グアテマラ①

## はらはら国境の町へ

真夜中の山岳地帯をバスは軽快に走っていた。メキシコ市で山賊被害が頻発しているからと勧められて、一番高い切符を買ったのは正解だった。

少し眠ったほうが良い。あと4〜5時間で国境の町に着く。このスピードなら、マチェエテ（山刀）を持った山賊が追って来ても逃げ切れるだろう。明日はいよいよ国境を越え、素晴らしい織物を作るグアテマラの村々を訪ねる予定だ。

少しウトウトし始めた時だった。バスは未舗装の道に入りスピードがガクンと落ちた。ヘッドライトで、私たちのバスは小さな村の細い路地をくねくねと走っていることが分かった。

酔っ払って寝込んだ山賊が起きないようにソロリソロリと走って

いるのか？ しかしこのスピードでは、待ち構える山賊がバスに飛び乗ることも出来るだろう。

切符のスーパーパスペシャルの意味は何だったのか。治安の悪い山岳地帯を高速で走り抜けるバスと思っていたが、違ったようだ。村人の眠りを邪魔しないように深夜の路地をのろのろ走るのであれば、高速バスとは言えない。

たぶん超豪華バスという意味だったのだろう。確かに豪華なバスで、日本でも見たことがない。切符が高いので、少ない乗客の中に貧乏そうな人はいない。

それにしても、こんな村の路地を通る道しか無いのだろうか。もしかして運転手が山賊と結託しているのでは？ 一番高い切符を買ったのは失敗だったかもしれない。傍らのベアトリーチェも眠れない様子だった。

そのようにして、いくつかの村を通り抜けた。眠れないままに夜は明け、国境の町に着いた。

(つづく)

グアテマラとメキシコ  
の国境付近の焼き物工房で出会った人＝筆者写す

橋本白道 佐賀県生まれ。京都で陶芸と出会い、備前で修業後、故郷に窯を開いた。スウェーデンやリトアニア、ドミニカ共和国に滞在し、ドキュメンタリー映画や陶芸学校づくりに挑戦した。2007年、美郷町上野の空き家に、リトアニア出身の陶芸家ベアトリーチェさんと夫婦で移住し陶芸工房を開いた。

